

Kentwood, Kentlake 高校滞在記（生徒編）

My precious memories

Y. Y

アメリカでのホームステイは、今の自分にとって、そして、これからの自分にとって、本当に貴重な経験だったと実感しています。たった10日間しかなく、本当はもっともっと滞在したかったのですが、得られたものはたくさんありました。

派遣メンバーを決める抽選で、私は1番最後に当たりました。すでに4人決まっていて、もう無理だな〜とのんびり思っていたら、流れ作業のごとく順番が回っていき、そして直感で引いたくじが当たりました。頭はもう真っ白で、旅行の準備をする数日前まで、「アメリカに行くんだ!!」という実感は得られませんでした。

そして、3/23(土)出発の日。

友達と海外旅行、しかも海外の学生と交流できるという楽しみで、すごくわくわくしました!!アメリカには無事に到着。空港では、一緒に来た阿武野高校の人のホストファミリーが、先にお迎えに来ていました。北野高校のホストは・・・30分後くらいに(笑)

わたしのホストをしてくれたのは、Emily でした。Emily は、交換留学で何度か日本に来たり、ホストとして迎えたりしていたので、結構安心していました。そして、とても優しくて、わたしを気遣ってくれて、だんだん甘えてしまいました。Emily に日本語で「コーヒーを 飲みたいか!？」と聞かれて、思わず「飲みたい!!」と言ってしまった場面もありました(^_^;)

この日はみんなと解散・・・したかと思ったら、ハンバーガー屋さんで再集合しました。わたしのまさに想像してたとおりの店内で、アメリカに来てる!!と興奮していました。かなりボリュームのあるメニューで、一食で一日分の摂取カロリーが摂れちゃうのもありました。そのあとは、アイスショップに行って(また食べるの!?)、皆それぞれ自分の家に帰りました。お家はとっても大きくて、中はかわいくて、うらやましいかぎりでした! 犬の Martin とお散歩に行ったり、ネコの Tiger と遊んだり、お母さん・お父さんと話したり。ゆっくりとした一日でした。

3/24 (日)

今日は北野生とホストの10人でシアトル観光に行きました。街並みは本当にかっこよくて、ずっとテンションがあがっていました! 皆が集合して早々、スタバに行って、そして青い木があったり、金の豚があったり、観光名所(?) みたいなところがたくさんありました。Public Market には人がたくさんにぎわっていて、Gum Wall (ガムの壁) は本当に絶句しました。大道芸人の人がたくさんいて、小さな子どもと同じくらいはしゃいでいました!! そのあと、電車で Chinatown という駅に行きました。そこには日本語や中国語で書かれた看板や店があって、少し安心感がありました。途中で買ったジュースは、明らかにでかくて、飲むのが大変でした。

3 / 25 (月)

初めて、Kentwood 高校に登校です。わたしと Emily は朝早く来たので、Emily の友達と食堂で会いました。周りにいる生徒はみんな英語で、Emily が友達と話しているのを見て、ひとりぽつんと残された感じでした。まだまだ speaking や hearing が追いついてないなと改めて実感しました。そして東北高校から男の子が一人来ていました。わたしは、日本語クラスや化学、Photography (写真) のクラス、歴史のクラスに行きました。やはり日本の教育と全然違っていて、自分で授業を選べていいなあと思いました。わたしは一番 Photography のクラスを楽しみにしていました。実際に各々が撮った写真を現像する様子は、見ていてとてもおもしろかったです。夜は Emily とお母さんと一緒に、スーパーとコストコに行きました。どちらも店内は広くて、アメリカンサイズにまたもや驚いてしまいました。探検みたいで楽しかったです。

3 / 26 (火)

阿武野高校の人が Kentwood に来て、一緒に教頭先生に校内を案内していただきました。学校内は迷路みたいで、今どこにいるのか全く分かりませんでした (笑)。体育館が三つあったり、外のビニールハウスで植物を育てたり、驚きの連続でとても楽しかったです。クッキングクラスで食べたオムレツはおいしかった！放課後、10人である飲食店に行きました。そこで、わたしたちは明らかに食べてはいけないような、赤くて周りがドロツとしたチキンを食べました。みんなはもう悶絶…。わたしも口に入れると、ドバーッと涙が出てきました。もう二度と食べたくないと思いましたが、Princess が、わたしたちの食べる様子を撮ったビデオはめちゃくちゃおもしろくて、仕掛ける側だったらやりたいなと思いました。その後、公園へ行きました。晴れていたのが気持ちよかったです。そして、市議会の会議に出席しました。ケーキやコーヒーが置いてあって、食べながら聞いてても良さそうな感じで、部屋の中が甘い香りに包まれました。

3 / 27 (水)

朝、校長先生が朝食会に招待して下さいました。店内は西海岸のカウボーイ風でかっこよかったです。なかなかボリュームのあるメニューでおいしかったです。そして、学校にもどると、日本語クラスでわたしたちの歓迎会を開いてくれました！！でも、さっき朝ごはんを食べただけで、あまり食べられませんでした。しかし、なぜかおにぎりは皆、別腹みたいに入りました (笑)。そして、昨日行った公園へまた行きました。制服で思いっきりタグ (おにごっこ) をしました。体が熱くなるまでしていました。

3 / 28 (木)

今日は Kentlake 高校にお邪魔しました！まだ開校してから十年ほどしかたっていないので、校舎がめちゃくちゃきれいでした。車の修理のクラスや英語、演劇クラスを見学しました。演劇クラスの先生はおもしろくて、ファンになりました。ランチタイムに、わたしたちは習字を披露しました。字が汚くてごめんなさい！！とおもいながらバンバン書いていました。夕方に、明日の Cherry blossom festival のリハーサルをしました。リハなのに緊張してしまって、すこし不安が残りました。

3 / 29 (金)

夜の Cherry blossom festival までの間、Kentwood で授業を受ける予定が、緊急事態により急きょ帰宅。とくに何も起こらなかったのが良かったです。そこで、午後はシアトルで行われたアニメの祭りに行きました。いたる所で、アニメやゲームの完成度が高いコスプレをしていて、呆然としていました。でも、最後は結構楽しめました！夜になり、いよいよ Cherry blossom festival です！！わたしたちは、AKB48 の「Everyday カチューシャ」を踊りました。この時までにみんなで練習した日々がしみじみ思い浮かびます。本番の記憶はほぼないですが、終わったあとは恥ずかしさと達成感で満ちあふれて楽しかったです。ダンスのあとに食べた焼きそば(?) は、、おもしろい味でした(笑)。わたしは、イチゴ大福にはまっていっぱい食べました。そのあとアイスショップにいったアイスを食べました(*^_^*)

3 / 30 (土)

Emily とお母さんと一緒に Space Needle に行きました。とても晴れていて心地よく、タワーの上からの景色は最高でした！そして、夜、Anna の家に集まって BBQ…と聞いていましたが、ピザでした(笑)。ゲームをしたりアクション映画を見たり楽しかったです！！

3 / 31 (日) イースター・ディ(^ ^)

今日は Emily のおじいさんの家に行きました。最初は緊張していましたが、おじいさんもおばあさんも優しく接してくれてうれしかったです。Emily 家は本当に仲が良く、温かいご家族でした。おじいさんの家に本物の銃(もちろん空砲)があり、すごくびっくりしました。そして、お昼ご飯の米を使った料理に感動していました。おいしかったです！！おばあさんからすてきなネックレスを、お母さんからチョコやお菓子をいただきました。

4 / 1 (月)

この日は、日本文化のプレゼンをしました。初めは心臓バクバクで噛みまくりました。最後のプレゼンは、あまり噛みませんでした。結局、心臓はバクバク鳴っていました。意外と楽しんでいる自分がありました。そして、ほぼ日本語クラスの子に会うのは最後だったので、写真を撮ったり、いっぱい話したりして楽しめました。放課後、10人で韓国の焼き肉屋やカラオケに行きました。プリクラを二人ずつで撮った時、Emily が Anna と A の番で思いっきり邪魔をして、結局 Emily 一人のプリクラになっていて大爆笑でした。10人の居心地の良さを感じつつ、少しずつ寂しさが大きくなっていきました。

4 / 2 (火) 最終日

お別れの時間が迫ってきて、悲しくなって、朝、家では言葉が浮かんでできませんでした。一時間目だけ日本語クラスを受けました。そして、授業が終わって、ホストと北野生10人全員集まりました。しかし、空港まで一緒に来てくれるのは Anna だけなので、Emily とは教室でお別れでした。何度もハグをして、帰りたくないという気持ちが募りました。「Don't cry!!」と Princess が言っていたので、泣くのを我慢していましたが、そう言っていた Princess が一番泣いていました。アメリカの生活に慣れたと思ったら、もう帰国の日なので、もの足りない気持ちがいっぱいでした。

このシアトル派遣で本当に貴重な経験をさせていただきました。写真を見返すたびに、たのしかったなあ、戻りたいなと思います。Emily との思い出の日々は今でも鮮明に覚えています。その度にさびしさや後悔が募ります。でも、またいつか、今度は自分たちの力でアメリカへ行って会いたいと思いました。きっとこのつながりは切れることはないからです。

2週間のホームステイを支えてくれた、北野の先生方、Kentwood, Kentlake の生徒のみなさん・先生方、家族の皆、Gilbertson 家のみなさん、そして Emily、本当にありがとうございました！！！！Thank you so much!!!

I want to go to America again!

N. A

Kent で過ごした約 2 週間は本当に充実したものでした。様々な文化や考え方にふれ、毎日いろんな発見がありました。

私たちがアメリカに着いたのは土曜日だったので、ホストのメンバーが空港まで迎えに来てくれました。私のホストである Anna と初めて会ったとき、自分の英語が通じるのか少し不安になりましたが、Anna が私の言っていることを聞き取ろうとしているのを見て、そんなことも気にしなくなりました。

空港で別れた後、またレストランでみんなと集まり、その後 M ちゃんとそのホストである Lynn も一緒に EMP Museum と Space Needle に行きました。EMP Museum はさまざまな音楽や楽器についての博物館で、実際にドラムやギター、ベース、キーボードなどを演奏できる場所もあって面白いところでした。Space Needle からはシアトルを一望でき、日本と全く違う景色で改めて自分がアメリカにいることを感じました。

家に帰ると 3 匹の猫がいました。3 匹ともとてもかわいくて、家ではよく遊んであげたりしていました。お母さんも明るい人で、私が聞き取りやすいようにいつもよりゆっくり話しかけてくれたりして、とてもよくしてくれました。

次の日はまたホストのメンバーと北野生全員で集まって観光に行きました。Pike Place Market やガムウォールなどをまわりました。街の人たちもとても明るくて、私たちが日本人だとわかると、「コンニチハ」と挨拶してくれたりして、魚屋のおじさんは（その店の名物らしいのですが）魚を投げたりしていて、とても楽しかったです。また街を歩いているとスターバックスがいたるところにあり、歩きながら飲んでいる人もよく見かけました。

平日は Kentwood 高校に通いました。高校までは Anna が運転する車で行きました。車で来る生徒は多く、高校にはとても大きな駐車場がありました。まず、1 時間目は日本語クラスに行き、そこで自己紹介を日本語と英語でした後、北野生一人に対して数人のグループをつくり、質問タイム。みんな日本語が上手で、自己紹介は日本語でしてくれて、質問もノートを見ながら積極的に日本語でしてくる子もいて、とても驚きました。みんな明るくて、あっという間に 1 時間目の授業が終わりました。

4 時間目になると、1 時間目に日本語クラスにいた Anna が戻ってきました。最高学年の 4 年生である Anna はアシスタントティーチャーとして、このクラスの授業を手伝いに来ているのだそうです。4000 人もいるこの学校では、昼食の時間をカフェテリアが混まないように 3 回に分けるそうで、4 時間目の途中でお昼ご飯を食べるという奇妙な体験をしました。

5 時間目と 6 時間目はビデオプログラミングと心理学の授業を Anna と受けに行きました。ビデオプログラミングの授業では実際に生徒たちが動画を取り、それをコンピューターを使って編集したりしていました。心理学の授業は知らない単語がたくさん出てきて、しゃべる速さも早くてまったく理解できま

せんでした。

次の日は学校を教頭先生に案内してもらいました。クッキングや陶芸、自動車の整備、保育、オーケストラなど、たくさんの日本にはない授業の様子を見せてもらって、日本でもこんな授業を受けたいと思いました。

また別の日には、**Kentwood** の校長先生との朝食会に行きました。アメリカンサイズの朝食を頑張って食べていると、校長先生が「アメリカではベーコンは手で持って食べるんだよ」とおっしゃったので、ベーコンを素手でつかんで食べるという貴重な体験をしました。

時間割は毎日同じなので、学校ではほとんど日本語クラスにいて、たくさんの人としゃべっていました。日本語クラスはとても楽しかったです。

木曜日、**Kentlake** 高校を訪れました。**Kentwood** とはまた学校の雰囲気が違っていました、日本語クラスの生徒たちはやはり日本語が上手で、**Kentwood** と違い **Kentlake** では日本人の先生が日本語の授業しているらしく、漢字の勉強までしていました。

Kentlake でもいろんな授業に参加しました。**Kentwood** にもあった自動車整備や陶芸、またドラマ(演劇)や英語が母国語でない人のための英語の授業(日本と同じような英語の授業)などに参加しました。陶芸では実際にそのクラスの生徒に教えてもらいながら作ってみたり、ドラマクラスでは練習を演劇専用のホールで練習していて、先生に衣装室や照明などが釣り下がっているところなども案内してもらいました。とても設備が整っていて驚きました。英語の授業では絵本のようなものを読んでワークシートをやるということをやっていました。しかし、その読んでいる絵本がまだ何とか速読で理解できるぐらいのレベルだったのに、幼稚園レベルと書かれていて少しショックでした。**Anna** に聞くと高校 1 年生の普通の英語の授業(日本でいう国語)ではロミオとジュリエットを読んだりするらしいです。

昼休みに食堂の近くで名前を漢字で当て字して筆で書くというイベントをやりました。汚い字でしたが、みんな喜んでくれたのでよかったです。やはり漢字がカッコいいというイメージはあるようでした。

次の日は、メールで脅迫文が届いたらしく 2 時間目で学校は終了。その後 **Sakura con** というアニメや漫画のイベントに行きました。コスプレしている人がたくさんいて、ほとんどが日本のキャラクターだったので、日本のアニメや漫画のすごさを知りました。

夕方からは **Kentlake** で **Cherry Blossom Festival** が行われました。これは日本をテーマにした地域のお祭りみたいなもので、私たちは日本からの交換留学生として阿武野高校の人たちと一緒に **AKB48** の **Every day** カチューシャを踊りました。思っていた以上に会場にいた方々が盛り上がってくれたので楽しく踊れました。また **Anna** もいきものがかりの **SAKURA** を歌っていて、歌がとてもうまくて日本語もアメリカ人が歌っているとは思えないくらいうまくてびっくりしました。日本の食べ物の屋台があったり、カラオケをやっている部屋などもありました。

次の日の土曜日は **Anna** と一緒にショッピングモールに行きました。ショッピングモールは 2 階建てだったのですが、一つのフロアの広さが物凄く広くて、店の数がとても多かったです。その後、家で音

楽など聞いていると、ホストとホストの友達と北野生が次々に Anna の家集まって、みんなで Wii をして遊んだり、ピザを頼んでみんなで食べて、映画を見ました。10 人以上いたのにみんなで家で映画を見られるほど、Anna の家は大きかったです。

Lynn と M ちゃんはそのまま Anna の家に残り、次の日の朝、バドミントンをして遊びました。またその日はイースターでもありお母さんからチョコレートなどをたくさんもらいました。チョコレートは卵形をしていてかわいかったです。

月曜日、最後の登校日であるこの日に、私たちは日本文化のプレゼンテーションをしました。私は日本の漫画についてだったのですが、やはり日本語クラスをとっているだけあって、漫画のキャラクターには反応が敏感でした。みんな静かに私の話を聞いてくれていて、話している間は緊張しかありませんでしたが、終わった後は達成感でいっぱいでした。各時間の日本語クラスの生徒と写真を撮ったりしてみんなでたくさんしゃべりました。

放課後はホスト達と一緒に焼肉とカラオケに行きました。焼肉も楽しかったですが、カラオケの印象がとても大きいです。カラオケは日本のようにどこにでもあるわけではなくて、街のにぎわっているところから少し離れたところにあり、機械も旧式で、部屋もガラガラした印象を受けましたが、日本の曲も思っていたよりもたくさん入っていて、いろいろ歌いました。

日本に帰る日、平日だったため空港には Anna しか来れませんでした。空港に行く前に、学校で他のホスト達とお別れをして、Anna からこのアメリカにいる間に撮った写真を入れたアルバムと Princess が描いた絵をもらいました。空港に移動する車の中で、Anna と二人で泣きました。空港に着いてからも、みんなで日本に帰りたくないと言いながら移動して、Anna ともお別れの時、最後に Anna から手紙をもらいました。最後の最後までこんなプレゼントがあるなんて思ってもみなかったのもとても驚きましたし、泣きそうになりました。

Anna と過ごした約 10 日間の間には、ここに書いた以外にもたくさんの思い出がありました。このホームステイの短い間でもたくさんの人によくしていただいたおかげで、本当に良い経験ができました。今回は英語があまりたくさんしゃべれませんでしたでしたが、次 Anna と会うときには、もっと話せるようになって、もっと日本のことを教えて、アメリカのことを教えてもらいたいです。

こんな風に思えるようになったのも、今回の派遣にいろいろな形で携わってきた方々のおかげです。本当にありがとうございました。

THANK YOU FOR EVERYTHING

M.M

ケントで過ごした約10日間を振り返ってみて最も心に残っていることは、出会った人々の温かさです。

日本を出発したのは、3月23日（土）でした。9時間半のフライトの後、ようやくアメリカにつきました。私は、ホストと対面する場所に行くまでホストとうまくコミュニケーションをとれるのだろうかなどという不安はあまり感じていませんでした。感じていたとしても現実味を帯びていないものでした。しかし、先ほどまで同じ飛行機に乗っていた阿武野高校の生徒たちが Kentlake 高校のホストと対面しているのを見ると、急に今から英語で生活するのだということの実感が湧いてきて、とても不安になりました。どんな感じでホストと対面したらいいのだろうか、最初に何を話したらいいのだろうか、10日間何も身に付けずに無駄なアメリカ滞在になってしまったらどうしようなど、次々に不安が出てきました。

そんな気持ちのままで、ホストの Lynn と対面しました。妹の Malia も一緒に来ていました。私はどうしたらいいか分からないでいると、Lynn が「何時間のフライトだったの?」「アメリカは初めて?」といろいろ英語で質問してくれました。私は一回では聞き取れなかったので何回も聞き直していると、Lynn が日本語で単語を言い換えてくれてなんとか理解することができました。一日目はずっと不安が消えることなく過ぎましたが、日曜日にみんなでシアトルに行くと少し距離が縮まったように思いました。

ケントに来て楽しい、嬉しいと心から思ったのは Kentwood 高校に通い始めた月曜日からです。最初に出席した日本語クラスでとても積極的に話しかけてくれる生徒にあって、それに答えているうちに、やっぱりわからなくてもコミュニケーションを取ろうとするって楽しいことだと思いました。

高校に通う中で一番多く出席したのが日本語クラスでした。最初の時間は、日本語クラスの先生がケント生4、5人のグループにつき、北野生1人を割り振って、会話をしました。日本語クラスの生徒は次々と自己紹介をしてくれました。生徒の中には、自分のノートに「しつもん」と書いて聞きたいことを箇条書きにしている人もいて、この時間のために準備してくれていたことが伝わってきて嬉しかったです。日本語がとても上手な生徒もいれば、あまり上手ではなくて、会話の途中で日本語が出てこなくなってしまう生徒もいましたが、そんな時には英語と日本語両方を使いました。そうしているうちに大切なのは何語で話すことができるかではなくて、内容が相手に伝わったかどうかということだと実感しました。ケントの生徒たちはそのことをもうよく理解しているようで、とても積極的で私も見習わなければと思いました。日本語クラスにはほぼ毎日行っただけで最後にはとても仲良くなって写真もたくさん撮りました。

日本語クラスのほかに、Princess や Anna について行ってビデオを撮るクラス・陶芸・心理学・海洋生物学・マーケティングなど日本では見ないようなクラスにも行きました。また教頭先生に校内を案内していただいて、本当に多くのクラスがあることを知りました。見学して思ったのは、やはり参加型・

実践的な授業が多いということです。ビデオのクラスの教室には何台ものコンピューターやカメラがあり、生徒たちが自分たちで短い映画のようなものを作っていて、スクリプトから撮影、編集まで全て自分たちで行っているようで、仕事に直結しそうな授業でした。学校の中にもマーケティングの練習を実際にするための店のようなものがあったりしました。

見学して私が特に興味を持ったのは英語を母国語としない生徒のための英語の授業です。

私たちが見学に行くと、生徒たちはそれぞれ名前と出身国とアメリカに来てどれくらいになるかを言ってくれて、アメリカには本当にいろいろな **background** を持った人が生活していることを改めて実感しました。アメリカで生活する人たちは、こんなに身近に自分とは文化などが違う人たちと接する機会がたくさんあるのだと思うととても羨ましくなりました。こんな中で生活していたら異文化に対して寛容になれるだろうし、日々新しい気づきがあるのだろうと思いました。

放課後はいろいろなことをしました。学校の授業が2時10分に終わるせいか、日本にいるときよりかなり時間がゆっくり流れているような気がしました。

初めての放課後（月曜日）は、Lynn の趣味はウォーキングなので Lynn のおすすめの場所に歩きに行きました。連れて行ってくれたのは **Green River** という Lynn が通う **community college** (Lynn は **Kentwood** 高校では日本語と数学しかとってなくて、あとはこの **community college** で授業をとっているそうです) の敷地内にある森のようなところでした。家からそんなに離れていないのに、背の高い木が生い茂っていて大きな川があって市街地が全く見えない空間があることに驚きました。ここを Lynn と歩きながら話すうちに、だいぶ間違いや言葉が詰まるのを恐れずに自分からも話せるようになったと思います。

金曜日の放課後には **Kentlake** 高校で **Cherry Blossom Festival** が行われました。私たちは阿武野高校の人たちと一緒に **AKB48** の **Every day** カチューシャを踊りました。同じくケント地区に来ていた市岡高校と発表の内容がかぶってしまいましたが、舞台に出ると観客席にいる人たちが盛り上がってくれたので良かったです。**Cherry Blossom Festival** はケント地区の4つの高校が参加するだけあって人がたくさんいました。そんな中でも、以前教会や学校で1回あっただけの人たちと会うと、あちら側から挨拶してくれてとても嬉しかったです。食べ物もいろいろ売られていて、金券で買ったいちご大福は美味しかったです。

学校がない休日には少し遠くにも行きました。

アメリカについたその日はいきなりシアトルにある **Space Needle** に行きました。去年の体験記を読んで上からの眺めは最高というのは知っていましたが、こんなに気持ちいいところだとは思いませんでした。東西南北どの方向ともそれぞれ違った風景が楽しめました。綺麗に家が並んでいる景色や、太陽の光が反射してキラキラ光る海の景色を楽しむことができました。

一回目の日曜日にはホスト5人と北野生5人全員でシアトルに行きました。シアトルには陽気な人達もいっぱいいました。**Pike Place Market** というところでは魚が売られていましたが、その店主さんが、私たちが日本から来たことを知るとわざわざ魚を投げるシーンを見せてくれたり、りんごを客に試食し

てもらうために店頭に立っている人が、日本語を披露してくれたりしました。そこで、特に Princess が初対面だろうと思われる人とも何気ない会話をしていたのもアメリカでは普通のことなのだろうかと思いました。シアトルは歩くだけでもいろいろ芸術的なものやパフォーマンスが見られて楽しかったです。例えば、ガムウォール、真っ青に塗られた木、フラフープをしながらギターを弾く人、金属性の像かと思いきや実は本当の人間がメイクであたかも像のように見せているものなどがありました。面白いものがあるたびにそこで写真を撮りました。

二回目の土曜日から日曜日にかけては Anna の家で過ごしました。土曜の夕方はホスト 5 人と北野生 5 人、それからホストの友達も一緒に集まって楽しく過ごしました。土曜日は夜遅くまで起きていたので、日曜日は 10 時か 11 時ぐらいまで寝ていたと思います。その日はとても天気が良くて家の前でバドミントンをしました。とてもものんびりした時間でした。

ホストファミリーと過ごした時間も忘れられません。Lynn の家族は全員とても仲が良い印象を受けました。家族はお父さん、お母さん、Lynn、Daniel（16 歳）、Laurie（14 歳）、Malia（3 歳）の 6 人でした。夕食の時は 6 人のうち誰か 1 人が用事でいなくらいで、基本的にはみんなで食卓を囲んで食べましたし、寝る前には必ず家族全員が 1 つの場所に集まって短い話などをしてから、みんなで”Good night”を言うという、とても家族の集まりを大事にする家族でした。そんな中に私も家族の一員のような形で入れてくれてとても嬉しかったです。また、Lynn の家族は家族以外の人々が家に訪ねてくるのをとても歓迎していて、木曜日ぐらいからは、Christie という Lynn の友達も家に泊まっていたし、あるときはたくさんのいとこが遊びに来ていて、パーティー状態でした。そこであった人達も私に “Hello”と声をかけてくれて暖かな気持ちになりました。Lynn の家の庭には、5 人が同時に乗って遊べるほど大きなトランポリンがあって、ある日の放課後、Lynn と Daniel と Laurie と Malia と私でトランポリンを使って遊びました。Daniel と Lynn はトランポリンがとても上手で飛んでいる間に空中で一回転する技などいろいろ披露してくれたし、私にも教えてくれましたが、やっぱり全然できませんでした。そのあとも 5 人でトランポリンを使ったゲームをやったことで、Daniel や Laurie と仲良くなれました。

Lynn の次に私とよく話してくれたのは、3 歳の Malia でした。Malia は初めて会った時から私にたくさん話しかけてくれましたが、最初の方、私は全く聞き取ることができず、首をかしげてばかりいました。そのうち Malia に、話しかけても無駄だと思われてしまったらどうしようと心配になったぐらいでした。でもそんなことは全くなくて、一緒にゲームをしようと誘ってくれたし、ある時にはサプライズを用意したよと言ってきて、私の使っている部屋に行ってみると、ベッドに Malia が描いた絵とサルの人形をセットしてくれていたりしてとても優しくしてくれました。だんだん仲良くなっていくと Malia の着替えを手伝ったり、おやすみの前の絵本を読んであげたりするようになりました。絵本を読む時は、私の英語でちゃんとベッドタイムストーリーになるのだろうかと思いました。読み終わると、満足したような笑顔を見せてくれたので安心したし、少し家族の一員として役にたてた気もしました。

このホームステイをして、漠然とした考えではありますが、もっともっと自分と違う文化を持ってい

る人と深く通じ合って、文化の違いをこえたひとつのことを一緒にできるようなそんな力を身につけた人になりたいと思いました。アメリカで生活する人の多様性に触れて、私は何をもってアメリカ人という言葉を使っていたのだろうと思いました。「アメリカ人だから・・・だ」とか「日本人だから・・・だ」とかいうことは決して言えるものではないと思いました。これからは、このように、住んでいる国などを聞いただけで相手のイメージを勝手に作ってしまわないようにしようと思いました。

最後にこんなに貴重な経験をするのを支えてくれた皆さん、本当にありがとうございました。

夢のような 10 日間!

S.K

ケントでの約 10 日間の生活は、帰って来てからは夢の中の出来事であったように感じています。しかし、一日一日のことを思い返すと決して忘れることのできない思い出が数えきれないほどできました。本当に最高の、充実した毎日でした。

ケント派遣のくじに当たった時はアメリカに行けるという実感が全くなく、しかも男子が 1 人だけだったのでかなり不安でした。しかし、同時に交換留学に行く阿武野高校生とダンスの練習をしたり、プレゼンテーションの準備をしたりしている内に、アメリカ生活への期待がどんどん高まっていきました。

シアトルに到着した時、僕のホストの David は空港に迎えに来られなかったもので、彼の友達、Tyler、Bj、Rj の 3 人が迎えてくれました。アメリカ初の出会いだけにかなり緊張しましたが、彼らはとても温かく迎えてくれて、すぐに打ち解けることができました。彼らと話し始めてすぐに驚いたのは、彼らの日本語が本当に上手だということでした。彼らがケントウッドの日本語クラス生の中でも特に優秀だということは後で知るのですが、とにかく積極的に日本語を使ってくれて、まだ英語を使うのに慣れない僕は、非常に助かりました。本場のハンバーガーショップとあつま〜いアイスクリーム屋でお腹いっぱいになった後、やっと David に会うことができました。彼は韓国系のアメリカ人で、完全にアジア系の、しかも温厚な顔つきをしているので非常に安心感がありました。長い時間をいっしょに過ごす内に、最初のイメージとは違って茶目っ気たっぷりで冗談好きという部分もあるとわかってくるのですが、本当に心優しく友達も多い好青年という感じで、彼のおかげで毎日を楽しく過ごすことができました。

初日の生活で何より衝撃だったのは、アメリカの車社会を実感したことでした。移動はほぼ全て車で、しかも高校生の Tyler や David が当たり前で運転するのです。ケントは自然豊かで家も道もなにもかもが広いので、高校生の運転だからといって怖いことはありませんでしたが、日本では考えられないことでした。ただ、滞在中に何度も David に「疲れたから運転してよ」と言われた時は、さすがに断りましたが(笑)

翌日は日曜日だったので、北野生とホスト全員でシアトル観光に行きました。過去の体験記で見たパイクプレイスマーケットやガムウォールを始め、路上でオウム(インコ?)に芸をさせるおじさんや、金属製の人形になりきった女性、フラフープを回しながらギターを弾いてる人など、街を歩いていけばおもしろいものだらけで、勝手にテンションが上がってしまいました。噂に聞いていた魚を投げる魚屋や、金のブタなんかも見る事が出来て、大満足でした。

平日は毎日 Kentwood 高校に通いました。僕たちは基本的に日本語クラスの教室にいて、たまにホストがとっている授業をいっしょに受けたりしました。アメリカの高校の授業は日本の高校とは違うものだらけで、数学や化学、歴史などの学問的な教科もちろんあるのですが、演劇にオーケストラ、陶芸、園芸、育児など、日本では考えられない授業をたくさん見学しました。また、時間割は 1 限〜6 限まで毎

日いっしょで、半年間選択した6教科だけをひたすら受けるらしく、非常に驚きました。授業中は、飲み物を飲むことはもちろん、食べ物を食べたり配ったり、ゲームをしている人がいても何も言われず、これが自由の国アメリカか、と思われました。また、休み時間にホストにいきなり「行くぞ!」と言われて公園に連れていかれ、みんな授業ないのかなとか疑問に思いながら遊んでいた日もありました。やっぱりこの自由さが、アメリカ最大の魅力なんだと思います。

金曜日の午前には、学校に脅迫メールが来たとかで強制下校となり、僕たちはシアトル市街のアニメコンベンションへ行くことになりました。会場はアニメやマンガのコスプレをしている人だらけでしたが、そのほとんどが日本のものだったので、正直そこまで興味がなかった僕が見てもかなりおもしろかったです。いっぱい写真を撮って、一緒に写ってもらったりもして、想像以上に楽しめました。

その日の午後には、Kentlake 高校で、周辺4高校が集まっての大きなお祭り、Cherry Blossom Festival が行われました。食べ物などの屋台があつてそれはそれで楽しかったのですが、何と言ってもお祭りのメインは、ホールの舞台でのパフォーマンスでした。僕たちは、北野生と阿武野生合同でAKB48の「Everyday、カチューシャ」を踊りました。練習のかいあつてか、女装させられて恥ずかしながらも精一杯踊ることができて、お客さんも盛り上がってくれたので本当に良かったです。また、NさんのホストのAnnaを始め日本好きの人が日本の歌を日本語で歌ったり(本当にうまかった!）、K-popを踊る人がいたりとお祭り全体としても、非常に盛り上がっていました。

次の土日は、買い物に行ったり、夜のスペースニードルで夜景を眺めたりしました。特に楽しかったのは、Annaの家にみんなで集まった時で、ケントに来てから仲良くなった人たちがほぼフルメンバーで遊びました。Wiiで盛り上がったりTylerのボイスパーカッションを聞かせてもらったり映画を見たり、楽しすぎて一瞬で時間が過ぎてしまいました。

出発前最後の夜は、コリアンバーベキューに行った後、カラオケ店に入りました。これがまたびっくりで、カラオケ店と言われても、どうみてもアパートでした(笑)。ワンルームの一室一室がカラオケルームになっている感じで広いのですが、一昔前のディスコみたいな雰囲気でちょっと心配になりました。しかし、入ってる曲は意外としっかりしていて、日本の今どきの曲もたくさんあつて驚きました。

そして出発の日、Davidを含め、ホストの大半とはKentwood高校でのお別れでした。最後にDavidとハグして別れを告げる間は本当に寂しく、日本に帰っていつも通りの生活を送るのが本当に嫌になっていました。アメリカでの行き当たりばつたりの生活はそれだけ刺激があつて楽しいものでした。別れを終えてから、飛行機に乗っている間までの時間は一瞬で、気付いたら日本に帰ってきていました。

このたった10日のアメリカ生活は、行く前に期待していた数十倍、驚きと興奮に満ちた毎日でした。英語で話したことなどほとんどなく、心の底から行きたいのかどうか、迷いながら応募した機会でしたが、今は本当に当たってよかったと思っています。この体験記を読んでいる後輩がいれば、絶対に後悔なんかないから、この機会に迷わずトライしてください。そして最後に、この最高の機会を与えてくださった北野高校とお世話になった先生方、ホストのみんなには、感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました。

So exciting! —My stay in Seattle—

T.I

アメリカで過ごした 11 日間は本当に素晴らしく充実した時間でした。私は一昨年のホストファミリーとしての受け入れにも応募したのですが、外れてしまい、この派遣の抽選をととても待ち遠しく思っていました。抽選の日、集まったのは 25 人ほどでその中で実際行けるのはたった 5 人。当たったら奇跡だと思っていました。だから、当たりくじを引いたときは本当に信じられませんでした。

年が明けると、ホストが決まり、その子と何度もメールをやり取りしたり、プレゼンの準備をしたり、阿武野高校の人たちとダンスの練習をしたり、お土産を買いに行ったり。しかし、こうしている間も「自分は本当にアメリカに行くのだろうか」と全然自覚がありませんでした。

いよいよアメリカ出発の日。飛行機は関空からの直行便で楽だったのですが、飛行機の中で一睡もできなかったのも、着いた時にはかなり眠たかったです・・・(-_-)zzz

ホストをしてくれたのは、一つ年上の Princess です。彼女は去年もホストをしており、慣れているようで安心でした。とても元気で明るくパワフルな女の子でした。また、私はアレルギーがあり、事前にメールで伝えておいたのですが、何か食べるときは常にそのことに気を使ってくれてとてもありがたかったです。

<シアトル観光>

着いた次の日は日曜日で、みんなでシアトル観光に行きました。電車で行ったのですが、びっくりしたのが、電車は日本のようなレールの上ではなく、道路のようなところを走っていたことと、切符を買ったのに日本のように改札がないことです。絶対タダ乗りしてもばれないだろうと思いました。Emily 曰く、たまに電車の中で駅員さんが切符を確認しに来るから、買わないといけないそうです。

シアトル・ダウンタウンに着くと、その景色は私がアメリカの街並みとして思い描いていた景色そのもので、テンションが上がりました！ ただ、数メートルごとにスターバックスがあって、アメリカ人はこんなにコーヒーが好きなのかと驚きました。そして PUBLIC MARKET CENTER へ。ここは市場のようなところで、店員のおじさんが優しく、私たちが日本からきたと分かったら、日本語を披露してくれたりしました。こういうところでもアメリカの人の温かさに触れることができました。そのあと、ガムウォールも見に行きました。お昼ご飯に食べたロシア料理のピロシキは、この時点でアメリカに来てから食べたものの中で、一番おいしかったです。そこで、去年ホストをしてくれた Colin に会いました。日本語がとても上手で感心しました。

そのあとは、スーパーと本屋さんへ。スーパーには日本の食品がずらりと並んでいました。特にお菓子は日本にある全種類があるのではないかとというぐらいたくさんの種類がありました。本屋さんには、日本のアーティストのポスターが貼ってあったり、日本のマンガもいっぱいあって、英語版はもちろん、

中国語版もありました。

その日の夜は家で映画を見ました。今まで見たことない映画だった上に、もちろん字幕なんてないので、絵でストーリーを推測しなければならなかったのが大変でした（笑）

<Kentwood 高校>

その次の日から、**Kentwood** 高校に通いました。日本語クラスの教室にはホワイトボードに日本の都市の名前がたくさん書かれていたり、浮世絵やでっかいこいのぼりも飾られていました。自己紹介のあとは、5, 6 人の生徒でグループを作り、そこに私たちが一人ずつ入ってお互いに質問し合いました。そこで、東北高校から柔道の企画で来ていた子に会い、久しぶりに日本人に会ったような気がして何かホッとしました（笑）アメリカではみんな向こうからどんどん話しかけてくれてたくさんコミュニケーションができたし、友達もたくさんできました。

最初の日、一・二時間目以外はそれぞれホストの授業について行きました。海洋生物学や陶芸、化学、英語の授業を **Princess** と一緒に受けましたが、当然ながらすべて英語なので終始チンプンカンプンでした。**Kentwood** 高校には他にも映像や美術、オーケストラ、車の整備などたくさんの（日本じゃ考えられない）授業があるそうです。結局みんな日本語クラスが一番居心地がいいということになり、次の日からはずっと日本語クラスにいました。何時間目かによって学年が違い、クラスの雰囲気も全然違いました。でもみんなすごくフレンドリーだったし、年が違う子たちとも仲良くなれて良かったです。

Kentwood 高校はとても広くて、一人だったら絶対迷子になりそうでした。廊下にはロッカーがずらりと並んでいて「海外ドラマの風景だ」と感動しました。でも副校長先生の話では、ほとんどのロッカーが使われていないそうです。自販機にはコーラしか売っていませんでした。また、授業中、特に日本語クラスでは普通に食事をしている人がいて驚きました。副校長先生曰く朝ご飯ならいいそうです。

あと、27 日はみんなが料理を持ち寄って毎時間パーティーでした。その日の朝ご飯は校長先生との食事でもボリューム満点だったため、あんまり食べられなかったのですが、唯一食べたおにぎりが、しばらくお米から離れていたためかすごくおいしく感じました。やっぱり日本人はお米に限るなと思いました（笑）

Kentwood 高校で最後まで謎だったのが時間割です。**Kentwood** の時間割はかなり変わっていて、一限の長さが何時間目かによって違ったし、休み時間も違って、6 分の時なんかは、広い校舎を教室移動するのは大変だろうと思いました。しかも授業開始が～時 34 分や～時 18 分といったようにめちゃくちゃ中途半端なのです。これは最後まで覚えることができませんでした。

<Sakura con&Cherry Blossom festival>

29 日は **Cherry Blossom festival** でした。午前中は日本語クラスの **Miyeun** 先生が **Festival** で売るためのスパムむすびを作るのをお手伝いしました。そのあと、まさかの緊急事態で突然帰宅となりました。後から分かったのですが、実はこのとき **Kentwood** の生徒、先生全員を殺してやるという強迫メールが届いていたらしいのです。まさかこのような事態に遭遇するとは思っていなかったのが、びっくりでした。でも当の本人たちは全然気にしている様子もなく、日本でいう「学級閉鎖になったから遊びに行こ

う」のノリで、「学校がなくなったから『sakura con』に行こう」ということになり、『sakura con (アニメコンベンション)』に行くことになりました。二度目のダウントウンです。すごい人の数でしたが、アニメコンベンションというだけあって集まった人たちはみんなアニメやマンガのキャラクターのコスプレをしていました。しかも中途半端なやつじゃなくがつつり本気のコスプレでした。私たちは、知っているマンガのキャラクターを見つける度に一緒に写真を撮ってもらいました。

帰るといよいよ Cherry Blossom festival でした。私たちは去年に引き続き、AKB48 の曲でダンスをしました。振りを忘れたらどうしようかととても緊張しましたが、曲が始まり私たちが出ていった瞬間、すごい歓声で良かったです。このお祭りは日本がテーマとなっていて、舞台の演目も、屋台の料理も日本のものでした。このように日本をテーマとする行事がアメリカにあり、その人たちがみんな楽しんでくれているのはとても嬉しかったです。

<放課後>

放課後は、映画を見に行ったり、Princess の家で David と K くんとお好み焼きを作ったり、湖のある公園に行っておにごっこをしたりしました。Princess がアルバイトの時はお姉さんと映画を見に行ったりスーパーに連れて行ってもらったりしました。

また、毎年恒例になっているのでしょうか、みんなで世界一辛いらしいチキンを食べに行きました。そのチキンはまず見た目からおかしかったです。真っ赤なソースがチキン自体が全く見えないぐらいべっとり塗られており、においも辛いにおいを通り越してすっぱかったです。一口食べた瞬間から舌と唇が激しく熱く、痛くなりました。しゃべる余裕もなく、ひたすら水に口をつけていないといけませんでした。もう二度とこんなものは食べたくありません。私以外の 4 人も私と同じような状態でしたが、Emily は一個丸々食べていて、信じられませんでした。舌が異常なのでしょうか。あまりにも辛かったので、Princess と David が買ってきてくれたアイスも 2 つも食べてしまいました(;°Д°)

<お花見&スペースニードル>

二回目の土曜日の午前中は Princess がバイトの時はお姉さんと映画を見に行ったり、教会のミサに参加させてもらったり、親戚一同の食事会に行ったりしました。Princess がいない上に親戚の人たちが集まっている中に私一人で正直すごく緊張しました(・_・;)。

夕方からは David のお兄さんの Daniel に彼が通っているワシントン大学にお花見に連れて行ってもらいました。Daniel は一昨年ホストをしてくれたらしいのですが、今まで会った中で一番日本語がうまかったです。大学の建物は全部お城みたいでこんな学校に通ってみたいと思いました。桜は満開で、たくさんの人たちがお花見に訪れていました。そのあとは、スペースニードルに行きました。夜だったので上から見える夜景がとても綺麗でした。

<巨大ショッピングセンター>

二回目の日曜日は Princess がアルバイトで朝からいなかったので、Princess の友達の Tyler (去年ホ

ストをしてくれたそうです) がショッピングモールに連れて行ってくれました。ただ、そのメンバーが、Tyler、Peter (後に Tyler の弟だとわかってびっくりしました)、David、K くん、私だったので、男子 4 人の中に女子 1 人というにわかに信じがたいものでした(・_・;)。しかも David というのはホストの David ではなかったのでまさかのホストなしでの行動となりました。ショッピングモールは日本のものとはまるで比べ物にならないほど大きく、絶対に一日では回り切れないだろうと思いました。

夜は Anna の家にみんなで行きました。最初はバーベキューパーティーだと聞いていたのですが、変更になったらしく、みんなでテレビゲームをしたり映画を見たりしました。この時以外にも予定が変更になることがしょっちゅうあり、そういうところもアメリカらしいなと感じました。

<帰宅前日>

日本に帰る前の日は、みんなで Korean BBQ とカラオケに行きました。カラオケは団地みたいな建物で部屋はディスコみたいに照明がギラギラでした。日本の曲も結構入っていて驚きました。ホストたちが歌っている知らない曲にノリで入ったりしてとても楽しかったです。あと、カラオケの前に立ち寄ったお店でプリクラを撮りました。アメリカのプリクラは一昔前の日本のものみたいでした (笑)

その夜、Princess からたくさんのお土産をもらいました。私の知らないところで買っていてくれたそう感激しました。最後の夜ということで、オールしようってなったのですが、リビングで映画を見ているうちに 2 人とも寝てしまいました。

<帰宅の日>

あっという間にお別れの日になってしまい、朝から暗い気持ちで学校に行きました。一時間だけ日本語クラスで授業を受け、最後にみんなと写真を撮りました。そのあとは、ホストは Anna 以外授業があり、空港まで見送りには来ることができなかったのも、休み時間内での怒涛のお別れとなりました。Princess が泣いてしまったのでさみしすぎて私も泣きそうになりましたが、また絶対会えると信じています。

シアトルは人がとても温かく、自然も豊かです。このようなところに滞在できて本当に良かったと思います。まだまだ書きたいことは残っていますが、とてもここにすべてを書くことはできません。ただ、毎日が本当に楽しく、最高の日々でした。日本に帰ってきてからもアメリカに戻りたくて仕方ありません。今回の経験は今まで生きてきた中で最高の、一生モノの思い出となりました。また、ただ単に英語で会話するというだけでなく、自分とは違う国で育ち、違う文化を持った人たちと寝食を共にし、交流できたことで、たくさんのものを得られたと思います。

最後になりましたが、ホストのみんな、先生、この企画に携わってくれたすべての方に感謝したいです。このような素晴らしい機会を与えていただき、本当にありがとうございました。そして、この企画がこれからもずっと続いていくことを期待しています。

初めに) 今から 13 年前、まだこの交換プログラムが今ほど完備されていなかった頃、当時 1 年の担任であった私は教えていない 2 年生の付き添い教員として渡米した。今から思えば彼らは実に優秀な生徒達であった。内の一人はかつて本校非常勤講師や、総合学習の一環である大学セミナーの講師をして頂いた京都大学教育学部大学院卒業の T さん（今は先生）である。（彼女は Oxford 大学でも学ばれた。何と優秀なことか！今は地方で高校の先生をしておられる。実に **Time Flies**！）初めて訪問した時は 2 週間滞在した。これは随分きつかった。まるまる春休みを献上するわけだから、当然帰ってからの自分の仕事の整理は本当に苦しかった。また、その頃のことを思い出すと、行く前の緊張感は、久しぶりの海外渡航で、またこれもさらに久しぶりのホームステイということもあり、言葉では表せないものであった。2 週間という長さでは荷物など行く準備も大変であったし、行く前にやっておくべき仕事も山のようにあった。（しかし、それでも、行くことによって得られた収穫は比類なきものであった事は事実である。）当時は、今と比べると自分の置かれている立場も、学校の状況も、交流プログラムの組織内容も全くと言っていいほど違っていた。3 年前と今回、私が 2 度目、3 度目の訪問をさせて頂いて感じたのはいろいろなことが随分変化してきているということだった。何と言っても国際交流の先生方のおかげで多分に便宜を計って頂き、付き添い教員の負担がかなり軽減された。これには感謝してもしきれない。滞在期間が半分になったことで荷物だけでなく心も軽くなったのだから。さて、数年前から付添い教員は 2 年の学年団から、と暗黙の了解であったので、主任であり英語科でもある自分の付き添いは当然のことと理解していた。私は今回行くにあたり、これまでとは違った角度からの収穫があれば良いと考えた。何より姉妹校の先生方と旧交を温め、自分の学年である 126 期生派遣団との 1 週間という異国での体験をある意味楽しみにもしていた。そして私がどのような収穫を得られたかはこの後、手記を読んで頂いたらすぐにわかっていただけるだろう。

出発当日) 早めに空港に着いてドル交換をしたりして、旅行会社の方とお会いし打ち合わせを簡単にした。その時愚かにも私はせっかく入った海外渡航保険の書類一切を家に忘れてきたのに気づいた。何もなければいいが、あれば大変である。これには自分ながらあきれた。旅行会社の方はそのあと私の迂闊さが急に心配になってこられたらしく、「この書類は後で M 先生に持って行って頂きましょう。」「この書類は念のためコピーをもう一枚取っておくので先生はこれだけしっかりお持ち下されば結構です。」などなどやたら気を遣って頂いた。そうこうするうち生徒や保護者の方達が到着。荷物の量は彼らは 2 週間滞在なので半端ではない。きっと昨夜は夜なべで荷物を詰めているだろうに、興奮しているせいか逆にやたら落ち着いていて元気である。（まあ、飛行機の中ではいやというほど時間があるのでその時に寝るつもりなのだろう、と高を括っていたが、実際は寝るどころか、おしゃべりや何やかやで元気印は続行でした！）見送りに来て頂いた S 先生や阿武野の校長先生、阿武野付き添いの T 先生らと気楽に雑談していたが 3 年前のことはもうすっかり忘れている。出発の手続きが始まると、機械で搭乗の手続きをせねばならず大変だった。普段、ゲームや携帯などいじって操作に慣れているはずの生徒達も四苦八苦？

だったと思う。事前に説明で聞いていた様に、持ち物検査は厳戒、厳重で、生徒達は最初だけは少し緊張しているようだったが、すぐに慣れ、係りの人と軽く会話を交わしていた。いよいよ出発の時間となり、見送りの方々と記念写真をとり、そこでお別れをした。私達は生徒らが（自分も）免税品店などの誘惑に負けないよう、ひたすら搭乗口まで長い距離をずんずん引率して、搭乗ロビーで一端解散した。あとは出発を待つばかり。無事に飛行機が離陸した時には本当にやれやれと安心した。生徒と少し離れた席に着席してほっとしたせいか急に空腹を感じた。機内食が持ちどおしかった。

実際は同じ日であるが一日目一土曜日)

飛行機は無事タコマ空港に到着した。食べたり、飲んだり、寝たり、ビデオを見たりであつという間の8(9?)時間であった。行きは搭乗時間が短いらしい。さて、当たり前のことだけれど外に出ると周りは全部英語、英語、英語!生徒もこの単純明快な事実にはやはり感動(恐れ?)していた。ちょっとだけ困って、だが無事に出迎えロビーを探して、後はいよいよ生徒とホストの方達との感動の対面である。ところがレイクの生徒や先生方、ホストは既に来ていて歓迎の垂れ幕(横幕?)まであるのにKentwoodの人が誰も来ていない!到着時間が早かったため、まだ空港に着いていないということをデービス先生(昔北野を訪問されたこともある、交流プログラム関係の古株の方。今はケントリッジの先生である。)からお聞きした。しばらく待つこと?分。ケントの出迎え団がようやく到着した。昨年本校を訪問した交換生の見知った顔もあり、何より、私がステイさせて頂くザモラ先生は旧知の間柄なのでほっと安心した。それぞれが何とか英語で挨拶を済ませ、私もホストの親の方達に挨拶をして、生徒全員がそれぞれの未知の世界へと飛び込んで行くのを見届けた。(これは重い荷物を肩から下ろした感じ!)さあいよいよ私もいざ出陣!とまあ意気込まずに、ここは、懐かしいホストのザモラ先生と数年ぶりの感動の再会を果たした。彼女は北野に2度引率で来られていて一度目は私の家に滞在された。二度目はT先生宅で、また、逆にこちらから訪問する時はいつも北野の教員のホストを快く引き受けてくださる。これまで泊めて頂いた方はH先生を始め数多い。デービス先生とザモラ先生ご夫妻と空港近くのレストランで昼食をとった。何を注文してもすごい量なのはわかっているのでとにかく量の少ないのをお願いして(それでも多い!)楽しく歓談をした。皆お互い古い北野の先生を知っているので専ら思い出話を花を咲かせた、というところか。そのままデービス先生と別れ、シアトル郊外の海見えるあたりを三人でゆっくり散歩した。カモメやかもがゆったりと水に浮かんでいて実に静かでのどかであった。眠気は殆どなく、素晴らしいお天気に感謝していた。そのあと、いよいよ先生のお宅へ。先生の豪邸は北野のステイさせて頂いた教員間では有名である。まあ、一言で言うとホテルのようなものである。日常生活をしながらどうしてあんなにきれいに片づいているのは不思議でならない。まず、北野高校からのおみやげの掛け軸(歌舞伎の絵が描かれたもの)や私的な私からのプレゼントをお渡しすると、本当に喜んでおられた。日本の文化がとても気に入っておられ、これまで先生に贈られたおみやげはきれいにサイドボードの中に並べてあって、まるで博物館の陳列棚のようだった。私は一層きれいにして頂いている部屋に案内して頂き夕食まで疲れていたの少し休むことができた。先生ご夫妻は週末は外食と決まっているので、チョイスを聞かれお任せするとベトナム料理店に連れて行って頂いた。これまでに食

べたことがなかったので新鮮な味だった。野菜がふんだんに使われているのは日本的で、味付けは甘く、香辛料がきいている。いくつか注文して自分で取り分けるので私には完食を気にせずに済むので有り難かった。残った分はあちらでは必ずパックに詰めてくれる。明日はオレゴン州の旧友夫婦が一日かけて私に会いに来てくれる。とても楽しみだ。早く就寝して明日に備えた。

二日目一日曜日)

オレゴン州の友人夫婦が朝早く訪ねてきてくれた。5人で近くのレストランで遅い朝食を取り、またザモラ先生宅でひとしきり懐かしい話に花を咲かせた。それぞれ、私に話す時はゆっくり話してくれているのだが、彼らだけのアメリカの話になると急速に会話のスピードが増して全部は聞き取れない。オハイオの友人は特に早いので、私はただにこにこしているだけと、一番やってはいけないことをしてしまった。アメリカ人は本当にフレンドリーだ。私の友人夫婦とザモラ先生ご夫婦はこれが初対面のはずなのにお互いの子供や税金の話で盛り上がり、帰り際にはそれぞれが来たときは互いの家に泊まるとか、クッキーのレシピを交換するとか数時間で

すっかり仲良くなっていた。この日も外食なので、彼らが帰った後は互いのプライバシーを尊重する。出かける時間を決めて私は近くに散歩に出かけた。静かな池が裏にあって珍しい鳥がいた。犬を連れて散歩に来ていた人に名前を聞いたら気さくに答えてくれた。ブラックバードだといって、ああ、ビートルズの曲で有名な鳥ですね、と私が言うのとまたまビートルズ好きだったらしくえらく喜んでくれた。

(でもザモラ先生夫婦は知らなかった。)夜行ったレストランで、私が食べきれなかったサンドイッチをお持ち帰りにしてザモラ先生のランチになるはずが、先生がパックを置き忘れてしまったので取りに一旦レストランに戻るともうゴミ箱の中だった。

ああ、頑張って食べれば良かった。勿体ないことをしてしまったと深く反省。胃薬を飲んで胃袋を大きくして就寝準備。明日は初日なので生徒に会うのが楽しみだった。おみやげなども忘れずに鞆につめてベッドに入ったが二日目にして、ここでジェットラグの反撃が襲ってきた。この日は興奮しているせいか一晩中一睡もできなかった。

三日目一月曜日)

徹夜状態で朝早くに日本語のクラスで集合。皆、昨日の日曜日の報告でどこに行った、何を食べたの、の話で話題は持ち上がり、どれだけホストに大切にしてもらっているかがよく伝わってきた。有り難いことである。しかし、慣れない食事や言葉の壁に早くもぶつかり、やや不安げな様子もちらほらあった。ホストの生徒達が本当によくしてくれて、がっちりガードしてもらっているという感じがした。日本語のクラスで生徒と一緒に自己紹介をしたり、日本の文化に関する質問に答えたりして後は自由会話。生徒のたどたどしい日本語に答えながら、文法を直してやったりする。英会話の授業の日本語版だと思ってもらえば良いだろう。ランチは食堂でフリーで頂く。果物やサラダが豊富でびっくり！食堂の方も皆親切で気軽に声を掛けて頂いた。午後から私もいくつか授業見学をして2時半すぎ〔早い！〕ザモラ先生と帰宅した。そのままスーパーへ買い物に行く。海外での楽しみの一つはスーパーでの買い物である。何よりデパートより値段が安く、日本にないような珍しいものが間近で見取れて、市民の生活感を目

のあたりに感じる事ができるからだ。本当に食品から家具まで何でもそろっている。大きなカートに
どんどん品物をほうりこんでいって、最後にカードか現金で精算する。現金を使う人はあまりいないそ
うだ。私はここでおみやげのお菓子などを買った。前回の経験から空港では高いし品数もそろっていな
いことを経験していたから。帰宅後一緒に食事の準備をしたり、クッキーを作ったり、いろんな話をし
て楽しかった。英語はいまいちでもハートがあるから大丈夫！（これは私の持論）ご主人が帰られるま
で音楽を聴いたり、私はまた家の周辺をゆっくり花など見て散歩した。

四日目一火曜日)

副校長のアイダ先生が私と阿武野の先生、生徒全員をつれて校内見学ツアーに連れて行って下さった。
校舎内施設をくまなく案内し、授業に入ってはその都度私達を紹介し、各授業の内容を説明して下さっ
た。生徒にわかるようにゆっくりとした丁寧な英語で話して下さり本当に有り難かった。校内には時々
授業に出ずに廊下で座っている生徒がおり、見つけるとすぐに名前と呼んで声をかけ、喫煙や携帯など
校則違反をしているときは迷わず注意されていた。副校長という高い位置にありながらも生徒目線で生
徒全員を見ようとする姿勢にはいたく感動した。先生はアフリカ系アメリカンである。これまでの長い
教員生活にはそういう意味での苦労も多かったのではないかと推察され、ますます頭が下がる思いだっ
た。殆ど午前中を使ったので生徒とランチを取り、午後はそれぞれがまたホストの授業に分かれていっ
た。私もいくつか授業見学をして2時半すぎ〔早い！〕帰宅した。夜から市長訪問がある大切な日であ
る。生徒によっては言葉の壁が大きく立ちはだかっているようでやや憔悴気味のものもいる。アメリカ
人と友達になりたいと思う気持ちが強く、それなのに話せないといういらだちや、焦りや自己嫌悪など、
到着後、2, 3日目に必ず襲ってくる波―これは自分との戦いなのだ。自分の中に相手を理解しよう、
自分を理解してもらおうという強い気持ちを持つこと、言葉ではなく気持ちを伝えようとする、心
が先なのだ。すると言葉は後から必ずついてくるもの。彼らの健闘を祈って、約束の時間に市庁舎で待
ち合わせてまずは市庁舎の案内ツアーへと。役所の女性の方が詳しく説明しながら市庁舎全体を案内し
て下さった。あいにく、英語も早く、説明も専門的で詳しすぎて生徒はよくわからなかったらしい。い
よいよ市長さんが来られていつものセレモニー。常時の審議の後、北野阿武野の友好交流の訪問をたた
えて下さった。生徒一人一人（教員も）の名前を呼び、国際交流の認定書とおみやげを手渡して下さっ
た。生徒はおそらく議会のような公の場で人前に出て市長のような方と話すのは初めての経験であつた
ろう。返事の声が小さくはないだろうか、逆に失礼なことを口走ったりはしないだろうか、などという
思いは全て杞憂だった。生徒は高校生らしく明るく爽やかに対応していた。市長の女性はもとは教員を
しておられたというだけあって知的で教養があり、温かくユーモアあふれた立派な女性だった。教員の
挨拶はない、と聞かされていたので安心して観察。生徒はケーキを頂き、各自おみやげのペン、ステッ
カーなどをもらい皆上機嫌で帰っていった。

五日目一水曜日) 朝から校長先生と会食に出かけた。近隣の有名なレストランで校長先生や副校長先
生との正式なアメリカスタイルの朝食会。多大なメニューの中からそれぞれが自分で選ぶことから大変
だったが、それも勉強だと校長先生は考えておいでのようだった。忙しい方で学校に到着してから5日

目にしようやくお会いする事ができた。校長先生は気さくで温厚なアメリカ紳士という感じの方でユーモアを交えて生徒にいろいろ話しかけておられた。この頃では生徒はもうすっかり現地の生活に慣れ、それが気に入っている様子で全く臆することなく校長先生の質問に元気に答えていた。若い人は本当に環境に順応するのが早いとつくづく思い知らされた。この日は私の為に休みを取って下さり、そのまま生徒と別れてシアトル観光に出かけた。私は三度目なので美術館、ワシントン大学、マーケット、本屋、とあらかじめリクエストをしておいたので無駄なく楽しい遠足の日となった。夜も夕食の支度を手伝いながら歓談。変わったメキシコ料理を教わったりした。

六日目―木曜日)

今日は桜祭りのリハーサルの日。会場となるセントレイクで参加団体が夜の6時から本番さながらのリハーサルを行った。午前中はレイクの授業に参加させて頂いた。車の整備の授業とエリック先生（この方もかつて北野に来られた。）の陶芸の授業、演技の授業に参加。陶芸ではエリック先生の指示で生徒さんが北野の生徒一人一人について下さり焼き物の説明から指導から、本当に親切にして下さったので有り難かった。演技の授業では本物さながらの舞台装置、衣装にびっくりの連続。セントウッドとレイクでは校風も日本語クラスの様子も少し違うようだった。昼には食堂で筆で相手の名前を漢字で書くコーナーがあって大盛況だった。こんなことならもう少し墨字を練習しておくのだったと後悔先に立たず。

七日目―金曜日) ウッド高校での最後の日

朝、お世話になった先生方にお礼のカードを図書館で書いていたらいきなりブロックアウトで帰宅命令の校内放送―アメリカの高校では危険なメールや電話での爆発予告などあれば生徒も教員も一切学校に残らず帰宅して待機となる。桜祭りのことも心配だがまず、生徒の身が心配。生徒が皆ホストと共に帰宅したことを確認して私もザモラ先生と帰宅した。家に帰るとテレビのニュースでも放送していたのでびっくりした。桜祭りが予定通り行われるか心配だったが何とかできそうだと聞いて本当に安心した。いよいよ桜祭りの本番になった。それぞれがホストに連れられて、私はミヤン先生と会場校のセントレイク高校へ向かった。会場では柔道の交流プログラムで参加している沢山の高校生も参加していて模擬店が出たり、朝の騒ぎにもかかわらず予想以上のすごい賑わいだった。舞台でのセレモニーではそれぞれ日本からの訪問高校全員が名前を呼ばれて引率教員と一緒に舞台に立ち、会場参加者に紹介された。祭り会場では焼きそばやお好み焼き、お寿司、など日本の食べ物が屋台のような形で販売されていて沢山の人が行列を作っていた。アメリカ風焼きそばを試食するチャンスはなかったのがこの売り上げが交流プログラムを経済的に支えていると交流の先生から伺った。ご苦労されている様子をみて北野高校には国際交流基金というのがあり、そういった心配なく活動ができて有り難いとつくづく感じた。舞台の方ではいろいろな発表が行われていていよいよ北野の番が近付いてきていた。彼らはAKB48の踊りを披露。出来映えはそれなりに盛り上がりほっと安心。後はそれぞれが祭りを楽しんでた。少し連絡ミスで心配することが持ち上がったがそれも大禍なく桜祭りは無事終了しそれぞれがホストに迎えられて帰宅していった。後になったがこの日後半引率のM先生と感激の対面(?)をした。やはり日本人

が懐かしい！この日はザモラ先生の義理の妹さんが留学生を連れて週末に泊まりにこられるので夜に会場で合流した。全て無事に終了し、皆で帰った頃には夜九時か十時を過ぎていたと思う。帰りの車の中でその留学生（メキシコ人で英語を学びに米国にきている）とそれぞれ第二言語の英語で話した。第二言語を学ぶ姿勢として彼から得るものが多かった。最後の夜はイースターのケーキで皆でお茶になった。明日の準備があるので私は早めに失礼したが。

最終日)

朝、ザモラ先生夫妻が空港へ送って下さるので、しっかり朝食を頂き、いざ空港へ向かった。車の中でまたの再会を約束し、最後の楽しい会話がはずんだ。空港で何度も別れを告げたあと、荷物の手続きを終え、ぶらぶら時間をつぶしていた。実は1時間前には搭乗していないといけないのに30分と途中から思い違いをしていて、まだまだ間があると思ってゆっくり出発ゲートに向かって歩いていた。すると放送で誰かが名前を呼ばれていた。日本人の名前のようだ。どこかで聞いたことがある住所や名前だと思って聞いていたら実は自分の名前だった。あわてて搭乗！あと十分行くのが遅かったらチケットはキャンセルになっていたらしい。危ない、危ない。

私は帰りの飛行機の席が大阪に帰るアメリカ人？の男の子の横だった。

帰りは13時間と長かったが、その間これまで見たいと思っていた映画を3本も見た。洋画を中国語の吹き替えで見るというのは変な感じだ、だが、考えてみれば日本語の吹き替えで見ると中国の人にとっては同じ様なものだろう。「戦火の馬」は本当に良い映画だった。途中から感動して泣きながら見ていたら、隣の男の子も横から私の画面を覗いて見ていて（はじめは何か自分でゲームみたいなのをいじっていたのに）彼も泣いていた。吹き替えなのにわかったのだろうか？

最後に)

この1週間を振り返ってみて、つくづく生徒達が持つ可能性の大きさ、それは彼らが持つ柔軟性、感動する心、親切にされて感謝する心、何かに答えようとする心、をひっくるめてなのだが、それを思い知った。それと同時にその心がまだ未完成な場合、それをサポートする、適切な助言や助力が如何に大切で責任があるかということも感じた。そして国際理解、異文化理解は究極のところ自分を知る、母国を知る、ということにつながるということを痛感した。123期、126期生共に1年からずっと英語を教えてきていていつも伝えきれずにいたことがある。（126期は進行形。伝えきれしていない。）英語は楽しいはずのものだ。英語が読めるようになって、書けるようになって、話せるようになって、知らない国の事がわかったり、知らない国の人と話せたり、知らない国へ旅行できたりするのは本当に心躍る経験である。しかし、私達は所詮日本人、日本語を話す民族なのだから、どんなに上手に英語が話せても、いつかは必ず限界や壁にぶつかるのだ。そしてその時それを埋めるのは薄っぺらな語学力ではなく、きれいな発音ではなく、人間としての自分の持つ迫力、オーラ、言葉では伝わらないものを感じさせる心なのということ。英語という道具があってもそれを使って伝えたいもの、伝えたい自分が無ければ相手を感動させる事はできないということ。126期派遣団は、着いてからしばらくはカルチャーショックで落ち込んでいたけれど、すぐにその不安や壁を乗り越え、持ち前の明るさとガッツで多くの

人と交流を結び、自分達の中の和もしっかり築いてくれた。それは彼らが英語に慣れたことも勿論あるが、それと共に彼らが多くの人に感謝し、心でそれに答えようとしたからではないだろうか。多くの人達の善意と努力によりこの交流プログラムは絶えることなく長く受け継がれて来ている。関わった人達が皆、その労苦はあっても、それに余りある成果や意義を感じているからこそ続いている試みなのだろう。最後に、ケントウッド高校ではホストのザモラ先生を始め多くの先生方、北野国際交流担当の先生方、ウッドで授業を見せて下さった家庭科や美術の先生方、校長、副校長先生、お昼に気楽に話しかけてくれた食堂の方、P Cを気軽に貸して下さった図書館の方、名札を作って下さった事務室の方、に本当にお世話になった。北野ではこの派遣に当たりいろいろ準備して下さった K、S、M 先生始め、事務の方々、M 先生、旅行業者の方（保険忘れて済みません！）、阿武野高校の皆さん、そして1週間を共に過ごした北野派遣5人組に心から感謝をしたい。（終）

私は後半の付き添いをさせていただきました。29日朝、伊丹から羽田へ、成田に着いて、午後3時発約8時間の機内生活の後、「2回目の」29日金曜日朝7時半シアトルに着きました。この後、翌週の火曜朝には飛び立ったわけですから、正味4日間の滞在でした。空港からは、学校までかなり遠く、車で送ってもらいました。ホストの生物教師ライアンさんの両親宅で午後は休憩をさせていただきました。このあと、夕刻、Cherry Blossom Festival(略してCBF)に招かれました。この時期、シアトルではあちこちにみごとなサクラの花が咲いており、祭りを主催するケントレイク高校では、日本の風物の展示、おむすび(ただし具はspam=缶詰ハム)、ヤキソバ、緑茶、お好み焼きのストールが軒を並べ、小ホールでは、現地高校生による和太鼓の披露、と日本色濃厚です。日本人生徒も、北野・阿武野の各5名のほか、市岡高校が15名、東北の柔道選手が参加していました。舞台上でDavidさんの司会で各校の先生生徒が紹介され、催しに移っていきます。北野・阿武野は、合同でAKB48を披露。大いにウケていました。

舞台左横にはサクラの花。その後、生徒たちは各自のホストと週末、私は、前述のライアンさんとシアトル観光の週末となりました。週末に見たシアトルの印象は、海鮮物が豊富な市場やスターバックス1号店のある市街地はそれほど大きくなく、マイクロソフト本社、航空機のボーイング社が近くに居を構え、閑静な住宅地が広がり、所々に牧場も見られ、水道水も十分に美味しく、それほど遠くないところに4000メートル級のアメリカ第3の高峰Mt. Rainier(レイニア山)をはじめとする峰々がそびえ立っている、自然豊かで住みやすく(しかも)安全な所です。印象深いのは、買い物の後連れて行ってもらった、ワシントン大学に隣接するArboretum(アーボリータム)という遊歩道の続く公園です。運河が四方にめぐらされ、緑が豊かで、実にくつろいだ気分になります。桜もあちこちに見られます。31日の日曜日はイースター、キリストの復活祭です。教会の礼拝の後、子供たちが芝生の上のイースターエッグをかごに集めて回ります。平和な光景です。そして、帰宅後家族そろって昼食。ホスト宅はいかに家族のきずなを感じさせてくれる暖かな雰囲気のある家でした。4月1日、月曜日、私には数少ない授業日。期待通り、北野生はしっかりプレゼンテーションをしてくれました。内容は日本紹介。渡航前に準備していたパワーポイント、テーマは「そば」「菅原道真」「日本のマンガ」「おせち料理」「年中行事」。ちょっと突っ込んだ説明もあったし、画面の構成も上手だったので、Q&Aも盛んで、その受け答えも善戦していました。6時間授業の1日ですが、2時間目だけが休憩で、あとの5時間を使って、北野生は合計3回、各時間のケントウッド生に対し、プレゼンをしてくれました。ネイティブを前にしたプレゼンはこれから先の自信につながったのではないのでしょうか?最後の火曜日朝、ケント生は授業で空港までは来ることができない中、最後の最後まで見送ってくれました。十代の高校生どうし、いいもんですね。